

2019年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493600082	事業の開始年月日	平成19年8月1日	
		指定年月日	平成19年8月1日	
法人名	株式会社 エイジサービス			
事業所名	グループホーム いずみ別荘			
所在地	(245-0017)			
	神奈川県横浜市泉区下飯田町811-4			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18	名
		ユニット数	2	ユニット
自己評価作成日	令和1年7月10日	評価結果 市町村受理日	令和1年10月2日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

最寄駅(市営地下鉄ブルーライン)下飯田駅から徒歩2、3分という交通アクセスに恵まれた立地条件です。少しずつ施設周辺が住宅地へと変わりゆく中、泉区の自然がまだ多く残っている環境です。散歩をしながら見える季節折々の富士山を楽しむことも出来ます。芝生の庭では季節の花々に囲まれながら外気浴を楽しみ、また、ホーム菜園では季節野菜を育てて、成長を観察、収穫を喜び、そして味わい、入居者様からも大変好評を得ています。「入居者様ご本人のペースを大切にそっと寄り添い、自立を支援します。」「個々を認め、ゆとりある生活と安定した援助を目指します。」というホーム理念のもと、日々のケアに取り組んでおります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和1年8月23日	評価機関 評価決定日	令和1年9月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、横浜市営地下鉄線「下飯田」駅から徒歩2分、横浜環状4号線沿いにあります。近所に、コンビニエンスストアやカフェがあります。

<優れている点>
運営推進会議では活発な意見や情報交換が行われ、サービス向上に生かしています。来年は、泉警察署生活安全課署員の出席により、防犯についてアドバイスを受ける予定をしています。地域の子育てサロンや保育園、隣接する福祉施設と年間を通じて日常的に交流を行っています。ハロウィンの季節には地域の子供たちが来訪しています。

<工夫点>
事業所理念は毎年4月に職員間で検討・再確認をするなど見直しを行っています。現行の事業所理念は長年に渡り職員から異論なく、浸透し、支援の礎となっています。理念は、玄関や各フロア入口、事務所内などに掲示し、周知徹底を図っています。職員は理念を理解し、個々の入居者の生活のペースを大切にしています。短距離、中距離、長距離と3コースの散歩コースがあり、入居者の希望や脚力によって変えて、散歩に出かけています。家族の協力を得て、カラオケや墓参り、外食、江ノ島ドライブ、夜桜見物など、戸外に出かける機会を増やすように努めています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム いずみ別荘
ユニット名	1F つる

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/>	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある
	<input type="radio"/>	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/>	3. たまにある
	<input type="radio"/>	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/>	2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/>	3. 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/>	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/>	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/>	3. たまに
	<input type="radio"/>	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている
	<input type="radio"/>	2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/>	3. あまり増えていない
	<input type="radio"/>	4. 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/>	2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3. 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/>	2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3. 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎年4月の内部研修として「会社理念」「ホーム理念」の読み合わせ、確認を行い、理念を共有している。各フロア事務所壁、入口、トイレ内側に掲示しており、いつでも確認できるようにしている。	事業所理念は毎年4月に職員間で見直しを行っています。現行の事業所理念は長年に渡り職員から異論なく、浸透し、支援の礎となっています。理念は、玄関や各フロア入口、事務所内などに掲示し、周知徹底を図っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会へ加入し、毎年案山子コンテスや盆踊り、お祭りなどお誘いいただき、参加、協力している。昨年は町内会より依頼があり、地域で発表する劇のお面を施設職員が作成している。	町内会に加入しています。年間を通じて日常的に地域との交流を行っています。子育てサロンや保育園との交流もあります。また、町内会での敬老会や忘年会へ誘われ出かけています。町内会々長から野菜を安く分けて貰っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方に運営推進会議へ参加して頂き、地域や施設、ご家族との話し合いの中で認知症についての理解をして頂いている。また、地域で困っているケースなどを話して頂き、協力できないか検討しながら地域に貢献する機会を見つけている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では活動報告を発信し、その際の意見や感想など、運営に活かせるよう努力している。また、反対に地域から近郊の公園や農場などのアドバイスを頂き、施設レクリエーションの参考にさせて頂いている。	町内会々長や副会長、地域ケアプラザ職員、入居者家族などが参加し、2ヶ月に1回開催しています。職員と意見交換を行い、サービス向上に生かしています。来年は泉警察署生活安全課署員に出席してもらい、防犯についてアドバイスを受ける予定となっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	主にケアマネジャーが市町村との連絡を取っており、関係は築けている。	泉区高齢障害支援課が行政の窓口です。必要に応じて連絡を取り、良好な関係を築いています。講習会への参加も積極的で、年1回保健所主催の感染症の研修に職員を派遣しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束」について内部研修で学習する機会があり、確認、学習している。玄関施錠については安全上実施しているが、入所時、ご家族や入居者様へ説明を行い、ご理解を得ている。	日常的に身体拘束をしないケアの徹底に努めています。また「身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会」を運営推進会議内に立ち上げ、2ヶ月に1回状況の確認を行っています。なお玄関は車の往来が激しい国道に面しているため家族の了解を得て常時施錠をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	「高齢者虐待防止」について内部研修で学習する機会があり、職員同士確認し合い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	機会があれば外部研修を受けるようにしている。実際には、なかなか研修を受けられてはいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約には会社役員がご家族へ十分な説明を行い、その上で契約の運びとなっている。その後の不安や疑問などがある場合は施設側へ話して頂き、必要であれば会社へ繋いで対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	直接意見を職員が受けた場合は、直ちに施設として確認し、お答えするようにしている。必要であれば会社から適切な対応、説明などを取るようになっている。また、施設にできることであれば、速やかに対応を取るようになっている。	家族などの来訪時に職員が進んで、意見や要望を聞くように努めています。またケアマネジャーが都度家族と連絡を取り合い、要望を聞いたり、相談に乗ったりしています。言いにくいことも互いに言える関係を築いています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	2ヶ月に1回の運営推進会議において家族代表、入居者代表の参加を頂きながら、直接的な意見を伺い、反映できるよう努力している。また、各職員へ日頃から声をかけ、困っていることや依頼などへ確認するようにしている。	管理者とケアマネジャーを中心に職員同士のコミュニケーションは非常に良好です。全職員の3分の2が入職10年前後です。スキルアップして復帰した職員もいます。また廃油で石鹸作りをしたりなど職員のアイデアを積極的に取り入れています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	新年度ごとに「介護職員処遇改善計画書」「キャリアパス要件」「職場環境等要件」などの掲示を行い、周知できるようにしている。スキルアップのための補助制度もあり個々の育成が整っている環境である。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修、内部研修への理解があり、外部研修では研修費用の他に交通費や昼食費の支給がある。普段から入居者様の変化する状況にあった支援内容へ職員からトレーニングの依頼などがある。研修へ取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	横浜市グループホーム協議会に加入し、市内グループホームへの交換研修等に参加し、サービスの質の向上や学習の開会を設けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	各職員が目視観察し、定期的に個別での傾聴、カンファレンスなどを行っている。お一人おひとり、その方の安心できる関係性を築き、要望や希望、不安などを確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご本人が安心、安全、楽しい生活を送れるよう、またご家族との関係性築くためにも、コミュニケーションを大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	介護保険のサービスは入所時で説明、実施しており、他のサービスとしては、訪問マッサージや訪問眼科、訪問美容などを活用している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩として大切に対応している。言葉遣いや関わり方を意識して接している。同じ時間、空間を生活する仲間として入居者様同士、職員同士、大切に関われるよう支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人にとって一番良いと思う支援を家族と協力して行っている。職員だけではなく、ご家族と共に本人を支えているように説明を行い、ご理解頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族了解のもと支援している。施設生活に支障のないように、工夫しながら関係性を継続支援している。現状では、これまでの大事な関係性や場所など、本人、家族の希望はそれほど多くはない。	事業所に馴染んでもらうことを優先しています。入居者の馴染みに関する情報は入居後、本人の日常生活が落ち着いてから聞くように心掛けています。誕生月の個別レクリエーションとして、居室担当者が本人の希望を聞き、馴染みの場所へ案内することもあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々、体調や感情の変化を見逃さず利用者同士が仲良く生活できるよう、レクの参加や会話を楽しめるように環境作りを工夫し支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスの利用が終了されても、ご家族へのこれまでの関係性を大切にしながら、定期的な連絡を行っている。また、時間が経過しても困りごとや相談を受けるように支援している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々、関わりの中で、今、何をしたいのか、何を言いたいのか、表情の中の気持ちを汲み取り、意思疎通が困難な方には事前に趣味嗜好をご家族から情報として頂き、支援に活かせるようにしている。	日常のケアを通して入居者の意向や希望を汲み取るよう心掛けています。特に、入浴時のリラックスした雰囲気の中や、夜間に一対一になった時などにさりげなく聞き取るようにしています。また、情報は職員全員が共有するよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人の体験や思いで話を語って頂いたり、これまで関わって来られた地域の人、ご家族よりご本人らしさの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの毎日の生活のリズムやできないことに注目し、その人の全体の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月1回のミーティング（ユニット会議）があり、職員で意見を出し合い、介護計画やケアの見直しをしている。その際、ケアマネより家族の意向、医療の状況も含めて考えるようにしている。	入居時に家族立ち会いの下、暫定の介護計画を作成し、その後、1ヶ月かけて全職員の気付きの収集と検討をしています。更に、医師の意見を取り入れ、最初の介護計画を作成しています。その後3ヶ月ごとにモニタリングを行い、介護計画は6ヶ月ごとに見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に日々の状態を記録し、全ての職員が情報を共有できるようにしている。申し送りノートの利用など職員への周知方法を考えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人、家族の状況に応じて通院や送迎などは柔軟に対応している。予定外の外出などの家族の希望も受け入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の保育園児との交流や訪問理美容サービスの利用、地域ボランティアの活用など、その人が楽しめる工夫を考えて支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人やご家族の希望する医療機関、医師に受診できるよう支援している。訪問診療もあり医療機関との関係性も密に結んでいる。	提携している協力医療機関の医師が、入居者1人に対し、月2回の往診をしています。看護師が週1回訪問し、健康管理を行っています。本人と家族の希望で入居前のかかりつけ医を継続して受診している人もいます。提携医、訪問看護師とは、24時間オンコールで相談できる体制です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調の変化を見逃さないよう、日頃の健康管理に気を付け、変化に気付いた時は報告をし、対応して頂き、早期発見に取り組むようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に関しては、病院関係者との関係を密に行い、利用者様の情報を十分に提供し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	早期から話し合い、家族、医療、施設関係者、それらの意向のずれがないよう、取り組んでいる。状態の変化に合わせ、必要時に話し合いを持つようにしている。	入居時に法人職員により、重度化や看取り介護に関する丁寧な説明を行い、同意を得ています。体調が変化した際にはその都度、医師と家族、職員で話し合いの場を持つよう努めています。開所から数名の看取りの経験があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	蘇生術の研修など、施設では実施されているが、個人的にはまだ受けたことはない。フロアに緊急時マニュアルを設置、慌てないように連絡方法を掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力を得て避難訓練を定期的に行い、地域との協力体制が築いている。新入居者や新職員の為にも定期的に小規模ではあるが避難訓練を行って入居者様の動きを把握している。	年に1回、消防署の指導の下、夜間想定避難訓練を行っています。隣接する施設の協力を得て、日中想定避難訓練を実施し、消防署に報告し助言をもらっています。新人職員が入職すると、避難訓練を行っています。備蓄品は4日分備えています。	地域住民が防災訓練に参加してもらえるような工夫をし、災害時に協力を得る体制を築くことも期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に敬語で接するよう心掛けている。特に入浴や排泄時には羞恥心に配慮しながら支援、対応している。	個人ファイルは、鍵のかかる戸棚で厳重に管理しています。排泄チェック表は、名前の代わりに部屋番号で記載し、入居者のプライバシーに配慮しています。人格の尊重やプライバシーに関しての内部研修を行い、職員の行動や言葉遣いを話し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常ご本人が思っていることを自己決定できるように働きかけをしている。本人の言葉を伺えるように支援に工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様の様子を見ながら、できるだけ希望に添った支援をしている。ご本人のやりたいことを実施できるように、思いに寄り添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節やその日の気温に合った服装をして頂くよう声掛け、工夫支援している。衣類の管理を施設側で行う事もある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	施設指定の食材を使い、メニュー通りに提供している。中でも入居者様の希望を受け、好物のカレーライスや食レクとして取り入れている。食材は何を入れたいか、お肉の種類など選んで頂き、提供し喜んで頂いている。	食材や献立は外部に委託し、職員が調理しています。食事レクリエーションの日は、職員が入居者に食べたいものの希望を聞いて献立を考え、買い物や調理をして提供しています。カレーライス、うなぎなど食事を楽しむ支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランス、カロリーコントロールされた業者依頼の献立で提供しているが、一人ひとりの状態や力により形状を変えたり、別のものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを促し、清潔保持をしているが、無理強いせず、一人ひとりのタイミングや力を大切にしながら、必要な手伝いをしている。また、訪問歯科と連携をとり、日頃から口腔ケアに注意している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンや日々の変化する力をしっかり観察することで不必要な声掛けや誘導はせず、できる限り自立できる支援を行っている。	排泄チェック表（IN・OUT表）を使用し、個別に定時誘導したり、入居者の様子を観察して、誘導しています。排泄に失敗した場合は、周りに気付かれないようにさりげなく居室やトイレに案内し、対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事にヨーグルト、牛乳を取り込み、水分不足にならないよう、こまめに水分提供を行っている。また、散歩、体操も毎日の活動に取り込み、排泄の記録をし、必要時施設医、訪問看護へ繋げている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴表に記録し、どの方も清潔保持できるよう順に入ってもらっているが、無理強いせず、ご本人の体調や様子を見て支援している。	入浴は、原則3日に1度の午後の時間帯ですが、本人の希望や体調で臨機応変に支援しています。ゆったりとした気持ちになってもらえるような入浴を心掛けています。重度化した際は、シャワー浴をして清潔を保持しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりのその時の状態に合わせ、休息を取ったりリラックスできるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服確認は職員同士で声をかけ合い、誤薬のないよう必ず内服を確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日にはご利用者の歩行ペースに合わせて散歩や外食に行く支援を行っている。ご家族の協力も得ている。	散歩のコースは、短距離、中距離、長距離と3コースあり、入居者の希望や脚力によって変えて出かけています。家族の協力を得て、カラオケや墓参り、外食に行く人がいます。江ノ島ドライブや夜桜見物など、戸外に出かける機会を作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭はご家族が管理しており、施設としては管理はしていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	月1回、ご家族へ施設生活の様子などを書いたお便りを出している。居室担当職員が記入している。電話の希望があれば、可能な限り電話を繋いでいるが、生活に支障のないように制限している場合もある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとに飾り付けを変えたりして、季節感を取り入れている。入居者様の能力に合った作業をレクに取り入れて、一緒に作成し、完成させる喜びに繋げている。	リビングは、大きな窓があり明るい陽射しが入ります。外のウッドデッキに出て、外気浴をしたり、庭の作物の収穫を楽しんでいます。和室があり、入居者の談話スペースになっています。季節を感じる貼り絵を作成し壁面に飾っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	デッキや庭などに椅子を置き、利用者様同士の交流も楽しめるようにしている。居室も行き来されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	必要性のある使いやすい物を持ってきて頂き、居室も広々と使って頂いている。仏壇や使い慣れたタンス、テーブルなど自由に使われている。お孫さんからの手紙やイラストを飾って楽しまれている。	ベッド、エアコン、クローゼット、カーテンが備えられています。入居者は、仏壇やタンス、テレビなど思い思いのものを持ち込み、居心地良い居室になっています。居室担当職員が整理整頓し、清潔で気持ち良く過ごせるように努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	状況の併せて、環境整備に努める。状況が変わった時はその都度職員で話し合い、ご本人の不安、混乱材料を取り除き、自立支援に繋げている。		

事業所名	グループホーム いずみ別荘
ユニット名	2F かめ

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎年4月の内部研修では、全職員へ向けて「会社理念」と「ホーム理念」の再確認と再周知を行っている。また、新人職員へは入職してすぐに「2つの理念」を理解して頂いている。両理念は職員の目につく場所に掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域町内会に属し、お祭りやイベントなどへ多くお誘い頂き、地域の中の施設として参加、協力できるような関係性を築けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	2か月に1回の運営推進会議において地域に向けて、認知症の理解を発信し、また、地域の方々の困り事、相談窓口として施設を利用して頂けるような関係を築いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では日常の活動報告を行いながら、地域の方々のご意見や評価を大切に、少しでもサービスの向上に活かせるようにしている。実際にはレクで出掛けた公園を町内会長さんへお知らせしたり、反対に良かった公園などを教えて頂いたりしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町村とはケアマネジャーが窓口となり、主に連絡を取り合っている。良い関係性が築けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	月2回実施している運営推進会議内に「身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会」を発足し、当施設における身体的拘束の確認とご意見を頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎年12月には「高齢者施設における虐待防止に係る一斉点検」を「自己点検シート」を利用し、虐待への理解と防止に繋げられるよう学習する機会を持っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	外部研修を受けられる機会はあるが、なかなか受講できていない。また当施設ではこれまで必要性がなかったが、これから学習する機会を持ち、今後に活かせるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約などは会社役員が対応している。十分な説明を行っている。また、契約後も疑問や不安などは施設としても伺える関係性を築き、ご家族、ご本人に安心して頂けるまで対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設玄関に意見箱を設置しているが、これまで意見が寄せられたことはない。但し、言いづらい内容でも施設へ直接伝えて頂けるような関係性を築き、運営に活かせる内容であればできる限り対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見を大切に、また要望なども相互に確認できる関係性を作っている。必要であれば会社へ繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	毎年の「介護職員処遇改善計画書」や「キャリアパス要件」「職場環境等要件」を提示しており、理解できるまで説明してくれる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の希望に応じて、ステップアップできるように、研修などに理解がある。研修費用の補助支給などがあり、また施設内でも個々の能力に合わせて介護力の指導を先輩職員が行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	横浜市グループホーム協議会に加入し、市内グループホームへの交換研修等に参加し、日々のサービスへの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	不安を取り除けるような声掛けをし、安心して頂いている。本人の言葉や職員から見た言動、思いなどを細かく観察し、記録することで、カンファレンスとしてケアプランに活かしている。言葉で発する事のできない部分まで見つけられるように努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	その人に合わせた支援を心掛けている。施設長、ケアマネジャーと共にご本人、ご家族と面会を行い、要望を確かめ不安や困り事をなくせるように、何回も話を伺ったり、アドバイスなど可能な限り行い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	たわいのない会話や触れ合いを大切にしている。施設長とケアマネジャーが新規入居者様、ご家族へ対応し必要とするサービスを確認し合っている。当施設を必要としないケースには適切な説明とアドバイスを行いその方に合った支援内容を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	個々の能力に応じた家事やレク、他者への関わりなどを見守りながら支援している。共に生活している事を理解してもらえるように関係性を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月末、ご家族へお便りを居室担当職員が手紙を書いて送っており、一カ月の生活の様子を報告している。必要時には施設長、ケアマネジャーが窓口となり、医療的な報告や支援内容の変更など報告連絡を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	懐かしい場所へ出掛けるなどのレクや外出をしている。施設での生活に支障のないように工夫しながら、これまでの関係性を維持できるよう支援している。昨年度は入居者様によるが、懐かしい場所を個別に巡るなどの外出レクを実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様同士、コミュニケーションを取られ、楽しまれたり、一人の時間もあり、自由に関わり合えるよう支援している。お一人で過ごす時間を大切にしている方へも、定期的に関わるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了してもお手紙や電話などがあり、関係性を大切にしながらご本人、またはご家族の経過をフォローしている。退所されても時期を見て連絡を取り、困り事や相談などあればいつでも伺う関係性を継続している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望やこれまでの生活情報を把握し、ご家族の希望も確認しながら本当のお気持ちに添えるよう努力している。発語がない場合は、その方のお気持ちを一番に考えて、また違った角度からも確認しながら見直している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人の思いや希望を聞いて、どのように生活されていたかを理解し、以前の生活に近づけられるよう努力している。これまでの生活や環境、故郷や両親兄弟にまで情報を得る努力をし、その方に必要な内容を確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご本人の一日の過ごし方など理解し、生活リズムや体調など把握するように努めている。共同生活の間ではあるが、身体観察、変動する能力に合った支援ができるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人やご家族の思いを聞きながら、介護計画を作っている。支援している職員から得る情報を大切にケアプランに活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ご本人の思いやその日の様子を個別の記録として残している。職員間の情報共有、確認ができるようにしている。また毎月のユニット会議において個別のカンファレンスを行い、状況の確認を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人やご家族の意見を聞きながら、柔軟に対応している。希望を受け、必要な支援、サービスかどうかも含めて職員全体で考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域連合に出席し、利用者様が安心して楽しく暮らせるよう、地域の方々との意見交換など行っている。地域資源の確認と共に、反対に施設として地域へ向けてできることを考える機会として活かしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人やご家族の希望に合わせて、かかりつけ医との関係性を築いている。ご本人、ご家族が安心できるように外部受診として継続支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	常時、異常がないか（定時バイタル計測時、入浴時のボディチェックなど）排泄時や日頃の表情などから細かく観察し記録に残している。全職員が周知できるようにしている。異常時には往診や訪問看護、または施設医へ直接報告し指示を仰げるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはその方の情報をできるだけ提示し、また定期的に現状を確認しながら早期に戻って来られるように病院の相談員を交えて連絡をとっている。退院後、施設へ戻って来られるかどうかの判断も含めて、相談員との確認を大切にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	施設入所時に家族により看取り同意書への説明を受け、サインを頂いている。重度化に伴い施設医師が必要時、ご家族へ病状説明を行っている。ご家族の意向を元に、医師や看護師の指示に従い、職員は支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の連絡先について連絡網を用意し、職員で共有している。また緊急時にいつ、どこで、誰が、どのように、どうしたのかなどの報告の為、常に記録をとるようにしている。応急手当の訓練は内部研修などで学習している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	事前に消防署と打ち合わせをし、定期的に火災訓練を実施している。訓練日前には近隣へ訓練の協力依頼をお願いしている。夜間帯は職員が各フロア1名ずつのため、連携がとれるように訓練している。災害時の備蓄品も備えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	その人にとってのこだわりや、どこまでできるかなどを理解し、否定することなく尊重し、また排泄や更衣の際は意識し扉を閉めるなどの対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人が思いを表したがっている際は、例え時間がかかったとしてもなるべく傾聴を心掛け、自己決定ができず、戸惑っている場合は分かりやすく選択肢を与えるなど工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースがあるので、言葉かけを工夫し、気分がのらない方には無理にレクをやらせたりせず、居室でゆっくり休んで頂いたり、その方のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴後、できるだけ爪をチェックするよう心掛けたり、排泄後の衣服の身嗜みなどを支援している。衣服を選ぶ際には、ご自分で選べる方にはご自分の好きな方を選択して頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備は、現在一緒に行う事はあまりできていないが、片付けはできるだけして頂いている。また、食事の食べ方や座り方などへの言葉かけには、食事中でもあるので伝え方に気を付けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの体調に合わせて、白飯量を計量し提供している。咀嚼が困難な方には、介護食で対応している。毎食の摂取総量を把握し記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自分でできる方は声掛けで見守り支援を行い、一人ひとりの力に応じた支援をするようにしている。口腔ケアの徹底により、風邪、インフルエンザの予防に繋げている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を利用し、定時誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援している。身体機能に応じた歩行介助を行っている。自尊心に配慮して紙パンツ、パット類も検討するようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄チェック表を使用し、主治医の指示により排便コントロールをしている。体操、散歩、水分補給の徹底を行い、便秘対策に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	職員が一方的に決めずに、入居者の希望を確認している。拒む、恐怖心などを考慮しながら、寛いだ気分で入浴できるよう無理強いせずに支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	食席でうたた寝の際は無理に声掛けせずに休んで頂いている。長時間眠り込んでしまう場合は、様子をみて居室で休んで頂くようお誘いしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	間違えのないように気を配り、服薬支援をしている。服薬内容がどの職員にも理解できるようにお薬表をファイルして確認できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お手伝いやレク、一人ひとりに合わせて支援している。活躍できるような家事、レクを交互に取り入れ、一人ひとりが活動的な生活が送れるように工夫している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は散歩や外気浴に出て行けるように心がけている。脚力に合わせて、時間調整をしたりしている。ご家族へも依頼し、定期的に外出して頂いて気分転換できるようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	施設としては個人で金銭を持つことをしていないが、買い物への同行などで実際にレジで支払いを体験したり、好きな物を購入する機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族、ご友人などから年賀状が届いたり、写真が届き、喜ばれている。また、電話への希望がある場合や電話がかかってきた場合などはキーパーソンへ了解のもと、電話を繋いでいる。その方により施設生活に支障のないように電話や手紙を控えている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者様の希望に添って家具やTVの配置などを一緒に決めている。フロアでは職員と入居者様とで季節の作品を製作し、飾っている。自分たちが関わった事、大作を完成させた喜びを味わって頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	和室にソファを置き、一人で過ごしたり、時にはソファで横になられたり、また仲の良い入居者同士が寛げる空間を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ダンスや写真などの思い出の品が持ち込まれており、利用者様の居心地の良さを配慮している。その方によるが混乱の原因となるような衣類や家具などを施設で管理している場合もある。その方の安心できる居室作りに工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご本人にとって「できないことの原因」や「何が分かりにくいのか」を追求し、状況に合わせて環境整備に努めている。安全に生活できるように支援している。		

2019年度

目標達成計画

事業所名 グループホーム いずみ別荘

作成日： 令和元年 9月 30日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	防災訓練へ、更なる地域の参加、協力をお願いし、災害時には協力し合える関係を築きたい。	夜間想定避難訓練には町内会からの参加を頂き、訓練を体験して頂く。	夜間想定避難訓練の案内発信の仕方を工夫する。地域の中の施設として、災害時にはどのような「地域力」をお借りできるのか？また、反対に地域の災害時には施設として何ができるのか？を確認し合う。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月